

【目的】 染織文化財の中には汚れが付着しているために洗浄を必要とするものがある。本研究では赤色系の染織品にしぼり、洗浄の際に用いられる洗浄剤が赤色系天然染料染色布にどの程度影響を及ぼすのかを布の収縮と色の変化の点から調べた。

【方法】 赤色系天然染料染色布として西洋茜、インド茜、中国茜、コチニール、紅花、スオウ、ラックで絹布を染色したものを試料布とした。洗浄剤として水、石鹼、市販中性洗剤、市販弱アルカリ性洗剤（蛍光剤配合および無配合）、石油系ドライクリーニング溶剤、洗剤の成分である陰イオン界面活性剤2種（SDS、LAS）、非イオン界面活性剤、炭酸ナトリウム、硫酸ナトリウムを用い、洗浄条件を変えて洗浄を行った。洗浄前後の布の収縮と色差より洗浄剤の影響を調べた。

【結果】 布の収縮は、ドライ溶剤を除き大きく、たて地がよこ地の3～4倍で、洗浄剤による差は小さい。変退色は、洗浄条件よりも洗浄剤、染料による違いの方が大きい。洗浄剤による変退色への影響は、石鹼>弱アルカリ性洗剤（蛍光剤有・無）>中性洗剤の順で大きく、含まれている成分の中では界面活性剤の影響が大きいことが判明した。ドライ溶剤の影響は小さい。染料別では、紅花、スオウ、コチニール（Sn媒染）への影響が大きく、コチニール（Al媒染）と茜は小さい。